

2. 事業の目的と概要	
(1) 上位目標	未舗装農村道路の通行性が確保され、市場や社会サービスへのアクセスが向上し、農村部住民のくらしが豊かになる。
(2) 事業の必要性（背景）	(ア) 住民による、効果的な農村道路維持管理の必要性 ミャンマーでは約 146,000 km の幹線道路ネットワークのうち 80%は未舗装道路の為、雨期になると道路全体が泥沼化し一般車両、場所によっては人の通行さえも困難になる。全体人口の 4 分の 3 が住むといわれる農村部では市場への農作物の運搬が困難となる他、病院や学校へのアクセスが制限され住民達は不便な生活を強いられている。道路行政による地方道路の整備は予算不足のために進んでいない。 それでも少しでも町との通行を確保しようと、僧侶と住民によりわずかな資金と労力が調達され、道路補修が行われている。しかしその補修効果は持続せず、毎雨季後に何度も道路補修のための資金集めと労働をせざるを得ない状況である。 (イ) 本プロジェクト対象地における事業実施の必要性 ①【カン ター 村】 カン ター村があるエーヤワディー地域のピャポン タウンシップは国を代表する米の特産地である。2008 年 5 月には大型サイクロン「ナルギス」の直撃を受け、カン ター村も深刻な被害を受けた。その後、主要インフラの復興が行政主導で進む一方で、村と幹線道路を繋ぐ水田の中に作られた農道は、住民の手により整備された。しかし、地山の水田に適す粘性土で盛土されているため、雨期にはぬかるみ、歩行さえも困難な状態になる。時には港、学校、病院がある隣村へ行く事ができない事態も起きている。 ①【シュエ ター 村】 カレン州の州都パアンタウンシップ内のカレン族の村である。2009 年に外務省・草の根無償資金協力で建設された道路がある。その後良好な状態が保たれたが、2012 年に EPC (Electric Power Corporation) がこの村近くに鉄塔を建てる際、大量の資機材を運搬する大型車両が同道路を通行し損傷が目立つようになった。付近の住民が道路補修を行うが、整備効果が十分でなくこのままではさらに悪化する恐れがある。 ②【ナウ パライン 村】 山間部で幹線道路まで 6 km のところに位置する。住民が建設した幹線道路までの道路は、道路排水設備が不十分である。雨期になると路面に滞留した水のために泥濘化、また勾配部では浸食が進み車両の通行が困難となる。村とパアン中心部とのアクセスは遮断されてしまう。

	住民は自給自足型農業を行っており、現金収入はタイへ出稼ぎに行かせた子供達、親類などからの仕送り得ている。その収入は、子供たちを州都パアン内の学校の寄宿施設に入れる費用にあてがわれる。雨期には幹線道路にまで到達できないために、距離的には通学圏内に位置するにもかかわらず、寄宿施設に入れざるを得ない。その費用が負担となっており、学費が払えず学校を中退させる親も少なくない。より多くの現金収入を得ようと農作物やこの村の付近で採れる木材、石材の販売事業を始めようとする者もいるが、道路の状態が悪く流通が確保できないために実現していない。しかし、コミュニティの団結力は固く僧侶が中心となって少量の、それでもなんとか調達したセメントを利用し村人達の手により道を補修している。一度に購入できるセメント量には限界があり、毎年道路の状況が悪化しており、早急な対応が必要とされる。												
(3) 事業内容	現地の農村開発を行う NGO、Dear Myanmar と連携し、事業を行う。住民参加での農道整備事業に不可欠なコミュニティへの事業説明、影響評価、資機材調達時の交渉や段取を担当する。申請団体が事業を統括し、道路整備に関する技術指導や資金管理と報告書のとりまとめを行う。 これまで対象道路整備を進めてきた沿線の住民グループに対してその道路整備能力を強化し、対象道路の通行性を改善する。対象道路の排水整備と軟弱地盤箇所の路盤補強、砂利もしくはコンクリート舗装を行う。 施工対象道路の延長は下記の通りである。 <table><tr><th>村名</th><th>カンター</th><th>シュエ タ</th><th>ナウ パ ライン</th></tr><tr><td>道路延長 (km)</td><td>1.2</td><td>1.6</td><td>6.0</td></tr><tr><td>備考</td><td>全長にわたり整備する必要がある。しかし、本申請では幹線道路より約 0.2 km の範囲を施工対象とする。本申請事業中に詳細設計を行い、次年申請事業で施工を行う予定。</td><td>全長 1.6 km であるが、合計約 500 m の損傷箇所について整備を行う。</td><td>全長にわたり、整備を行う。</td></tr></table> まずグループリーダーとその補佐に対して、整備計画設計、積算、実施計画の立案ができるよう研修を行う。その後、申請団体と連携団体エンジニアの指導のもと、グループリーダーと補佐が施工監督を行いながら住民参加による道路整備を行う。実施工を通して道路状況が改善されると同時に参加住民の道路施工能力が強化される。	村名	カンター	シュエ タ	ナウ パ ライン	道路延長 (km)	1.2	1.6	6.0	備考	全長にわたり整備する必要がある。しかし、本申請では幹線道路より約 0.2 km の範囲を施工対象とする。本申請事業中に詳細設計を行い、次年申請事業で施工を行う予定。	全長 1.6 km であるが、合計約 500 m の損傷箇所について整備を行う。	全長にわたり、整備を行う。
村名	カンター	シュエ タ	ナウ パ ライン										
道路延長 (km)	1.2	1.6	6.0										
備考	全長にわたり整備する必要がある。しかし、本申請では幹線道路より約 0.2 km の範囲を施工対象とする。本申請事業中に詳細設計を行い、次年申請事業で施工を行う予定。	全長 1.6 km であるが、合計約 500 m の損傷箇所について整備を行う。	全長にわたり、整備を行う。										

	村名	カンター	シュエ タ	ナウ パ ライン
	リーダー（人）	9	5	10
	リーダー補佐（人）	5	5	5
	参加者（人）	51	45	100
	(ア) グループリーダーへの施工に関する研修			
	【研修内容】			
	① 対象道路の現状、問題点の把握、現地調達可能資機材の調査、整備計画の策定を実作業を通して研修する。			
	② 策定した計画について道路沿線住民間の合意を得る。			
	③ 道路問題を担当するリーダーとリーダー補佐に対して、指導的またその補佐的な立場となりうるよう研修する。研修内容は下記の通りである。			
	a 労務人員管理、資機材の管理			
	b 施工記録とその報告形式			
	c 労働集約工法に関する基礎研修			
	d 行政の道路管理者、農村開発部門やその他民間団体、援助機関等との連携体制の構築			
	e 施工後の継続した維持管理手法経過状況や雨季における問題箇所の把握、記録			
	f 上記 e を踏まえた維持管理計画の立案と実施			
	(イ) 実施工とグループメンバーへの施工に関する実地研修			
	【研修内容】			
	① 策定された計画に基づく資機材の調達と保管			
	② 本団体と協力団体スタッフの指導もとで、(ア) で研修を受けたグループリーダーとその補佐が施工監督をし、住民参加による施工を行う。			
	③ 維持管理の実施			
	(ウ) 住民グループの農道整備能力強化研修を通じた農道整備の成果に関するワークショップ			
	【ワークショップ内容】			
	本申請事業の終了前に、住民グループに対する農道整備能力研修と実地研修による農道整備効果について評価する。グループリーダーとその補佐、また道路管理者や地方行政官を対象とする。			
	(エ) 現地で活動する我が国 NGO への「土のう」工法など住民参加型未舗装道路整備手法の研修			
	各 NGO の活動する地域で、(ア) ③のパッケージ化された研修を行う。			
(4) 持続発展性	現在地方道路は国境省が管轄しているが、本申請事業対象地域では僧侶と住民グループによって自分たちの生活改善のために道路整備が行われてい			

	る。つまり、自助努力を惜しまない風土がある。 年間を通した道路状況を踏まえて、整備とその後の維持管理計画を立て、効果的に限られた資源を利用し最大の整備効果を出すことが求められる。そのための技術移転を実施工を通して住民グループに行う。技術が定着し、施工後の様子や維持管理を通して問題に対処したという自信を醸成することができる。その結果、事業終了後も彼ら自身により道路整備や維持管理が持続実施されることが見込まれる。資機材管理や施工記録、労働集約工法の基礎を身に着けることで、今後その他の道路整備事業で経験者として雇用の機会を得る可能性もある。 行政の道路管理者、農村開発部門やその他民間団体、援助機関等へも住民グループの行う道路整備事業を認知させることで、地方道路整備や農村開発事業のひとつとして予算が付き、住民と行政機関等との連携による持続的な活動が実現される。												
（５）期待される成果と成果を測る指標	<table> <tr> <th>成果</th><th>成果を測る指標</th></tr> <tr> <td>住民グループによる道路整備</td><td>カンター村 0.2km、シュエタ村 0.5km、ナウパライン村 6km、計 6.7Km、施工前後の写真と施工記録</td></tr> <tr> <td>市場、学校、病院等へのアクセスの改善</td><td>通行車種、通行量、走行時間調査（施工前後で調査し、比較する。）</td></tr> <tr> <td>グループリーダーとその補佐係が、農道整備・維持管理計画を立案し、資機材管理、施工記録報告ができるようになる。</td><td>計画と実績の比較、資機材管理、施工記録帳票、施工監督状況の視察</td></tr> <tr> <td>住民グループが道路整備・維持管理計画、労働集約工法の基礎を習得する。</td><td>習熟度調査を研修参加者 220 名に対して実施し、176 名（80%）以上の参加者がチェックリストの内容を 80% 以上理解する。</td></tr> <tr> <td>道路行政等との協働体制（支援や請負）につながるよう、両者の関係が強化される。</td><td>ステークホルダーの現場見学回数 グループリーダーとステークホルダーとの会合回数</td></tr> </table>	成果	成果を測る指標	住民グループによる道路整備	カンター村 0.2km、シュエタ村 0.5km、ナウパライン村 6km、計 6.7Km、施工前後の写真と施工記録	市場、学校、病院等へのアクセスの改善	通行車種、通行量、走行時間調査（施工前後で調査し、比較する。）	グループリーダーとその補佐係が、農道整備・維持管理計画を立案し、資機材管理、施工記録報告ができるようになる。	計画と実績の比較、資機材管理、施工記録帳票、施工監督状況の視察	住民グループが道路整備・維持管理計画、労働集約工法の基礎を習得する。	習熟度調査を研修参加者 220 名に対して実施し、176 名（80%）以上の参加者がチェックリストの内容を 80% 以上理解する。	道路行政等との協働体制（支援や請負）につながるよう、両者の関係が強化される。	ステークホルダーの現場見学回数 グループリーダーとステークホルダーとの会合回数
成果	成果を測る指標												
住民グループによる道路整備	カンター村 0.2km、シュエタ村 0.5km、ナウパライン村 6km、計 6.7Km、施工前後の写真と施工記録												
市場、学校、病院等へのアクセスの改善	通行車種、通行量、走行時間調査（施工前後で調査し、比較する。）												
グループリーダーとその補佐係が、農道整備・維持管理計画を立案し、資機材管理、施工記録報告ができるようになる。	計画と実績の比較、資機材管理、施工記録帳票、施工監督状況の視察												
住民グループが道路整備・維持管理計画、労働集約工法の基礎を習得する。	習熟度調査を研修参加者 220 名に対して実施し、176 名（80%）以上の参加者がチェックリストの内容を 80% 以上理解する。												
道路行政等との協働体制（支援や請負）につながるよう、両者の関係が強化される。	ステークホルダーの現場見学回数 グループリーダーとステークホルダーとの会合回数												